

ネットメロン“アンデス”の夏秋(8~9月)どりの栽培様式

丸山康広・栗田公司

(山形県立砂丘地農業試験場)

Cultivation Method of “Andes” Netted Melon for
Summer and Autumn Production

Yasuhiro MARUYAMA and Kouji KURITA

(Yamagata Prefectural Sand Dune Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

山形県庄内砂丘地におけるメロン栽培の歴史は古く、以前はプリンスがほとんどであった。しかし、1978年ごろからアンデスが導入され始め、現在は主力品種に位置づけられている。1989年におけるアンデスの作付面積は490haとなっている。

作型は、6月下旬~7月中旬収穫のハウス早熟栽培、7月下旬~8月中旬収穫のトンネル早熟栽培が主体となっている。このため、出荷のピークは7月下旬~8月上旬に現われ、このころから販売単価が下落する例が多くあった。したがって、この出荷ピークの山を前後に崩していくこと

が、メロン作経営の安定をはかるうえで、また、労働力分散の面からも極めて重要なことである。

先に、前進出荷のための栽培技術は確立したので、今回は、ネットメロン(品種 アンデス)の収穫期を8月中旬~9月まで拡大するため、大型トンネル及びハウス栽培における播種期と栽培様式について検討した。

2 試験方法

- (1) 試験圃場: 山形県立砂丘地農業試験場(山形県酒田市) 砂丘未熟土(内灘統)
- (2) 供試品種: アンデス(サカタのタネ)
- (3) 試験区: 表1参照

表1 試験区

| 区 | 播種期 | 定植期 | 整枝方法 | 栽培様式 |
|---|-------|-------|-----------|-----------------|
| 1 | 4月25日 | 5月22日 | 子づる2本片側誘引 | 大型トンネル這い栽培 4果/株 |
| 2 | 5月15日 | 6月8日 | 子づる2本片側誘引 | 大型トンネル這い栽培 4果/株 |
| 3 | 5月15日 | 6月8日 | 子づる2本両側誘引 | ハウス這い栽培 4果/株 |
| 4 | 5月15日 | 6月8日 | 親づる1本仕立て | ハウス立ち栽培 1果/株 |

注. 目標着果節位: 1区 11~15節, 2区 9~13節, 3区 9~12節, 4区 9~11節

(4) 栽培概要

- 1区 うね幅: 2.7m, 株間: 80cm, 透明ポリマルチ使用
 - 2区 うね幅: 2.7m, 株間: 80cm, 黒色ポリマルチ使用
 - 3区 うね幅: 2.7m, 株間: 45cm, 1条植え, シルバーポリマルチ使用, ハウスサイドに白寒冷しゃ使用
 - 4区 うね幅: 2.7m, 株間: 40cm, 2条植え, シルバーポリマルチ使用, ハウスサイドに白寒冷しゃ使用
- 施肥量 (kg/10a) N-9.5, P₂O₅-14.3, K₂O-12.1

した(表3)。

一方、4月25日播種では、5月15日播種のような糖度のばらつきや果形の乱れがなく、果実形質が優った(表3)。

(2) ハウス栽培

這い栽培, 立ち栽培とも雌花着生・着果は良く、それぞれ95%以上の高い数字であった(表2)。

果実肥大期は、前述のとおり7月~8月の高温期に当り、這い栽培は高温の影響により、果実肥大が良い割には糖度のばらつきが大きく、果形が乱れ、品質は劣った(表3)。

表2 雌花着生・着果

(1区10株当たり)

| 区 | 雌花着生率 ¹⁾ | 目標着果節位 交配期間 ¹⁾ | 同左平均 交配日 | 着果率 ²⁾ |
|---|---------------------|------------------------------|-------------|-------------------|
| 1 | 97.0% | 6/24~7/1 | 6/28 | 100% |
| 2 | 96.0 | 7/9~7/15 | 7/12 | 96.9 |
| 3 | 97.3 | 7/8~7/14 | 7/11 | 95.9 |
| 4 | 100 | 7/3~7/8 | 7/5 | 98.3 |

注. 1): 1区 11~15節, 2区 9~13節, 3区 9~12節, 4区 9~11節

2): 着果数/雌花着生数 × 100

(1) 大型トンネル這い栽培

4月25日・5月15日播種とも雌花着生・着果とも良かった(表2)。しかし、5月15日播種では、着果及び果実肥大が7月~8月の高温期に当り、トンネル内は砂地の影響を受けて高温となり、果実肥大が良い割には、糖発現が不安定でばらつきが大きくかつ果形が乱れるなど品質が低下

表 3 果実形質

| 区 | 平均 交配日 | 平均 収穫日 | 着果 節位 | 果重 (g) | 果実の長さ(cm) | | 果 ¹⁾ 径比 | ネット 密度 ²⁾ 盛上り ³⁾ | | 果形 ³⁾ | 総合 ³⁾ | 糖度(Brix) | | |
|---|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|------|-----------------------|---|-----|------------------|------------------|----------|-------|-------|
| | | | | | たて | よこ | | 最高 | 最低 | | | 平均 | | |
| 1 | 6/27 | 8/15 | 12.2節 | 1,576 | 14.1 | 14.3 | 0.98 | 2.2 | 2.2 | 2.3 | 2.0 | 16.3% | 13.7% | 15.1% |
| 2 | 7/11 | 8/28 | 9.2 | 1,435 | 13.5 | 14.0 | 0.96 | 2.1 | 2.1 | 1.9 | 1.9 | 16.6 | 13.1 | 14.8 |
| 3 | 7/10 | 8/28 | 9.7 | 1,518 | 13.8 | 14.2 | 0.97 | 2.0 | 1.9 | 1.9 | 1.8 | 16.3 | 10.9 | 14.7 |
| 4 | 7/ 5 | 8/24 | 9.7 | 1,618 | 14.4 | 14.4 | 1.00 | 2.8 | 3.0 | 2.7 | 2.6 | 18.9 | 15.8 | 16.9 |

1): たて/よこ 2): 1 (粗) ~ 3 (密) 3): 1 (不良) ~ 3 (良) 4): 1 ~ 3 区
10株, 4区 20株 調査

しかし、立ち栽培では、糖度が高く、安定し、更にネット発現が良いなど果実形質が優れた(表3)。これは、立ち栽培により、風通しが良くなり、メロンの生育環境が改善されたためと考えられる。

表 4 収穫果数

| 区 | 収穫 果数 (個) | 商品 果数 (個) | 商品果 重 (kg) | 果 ¹⁾ | | 等級の分布 | | |
|---|-----------------|-----------------|------------------|-----------------|--------------------------|-------|------|------|
| | | | | 果数 (個) | 重量 ¹⁾ (kg) | 秀 | 優 | 良 |
| 1 | 38 | 36 | 58.4 | 167 | 270 | 2.8 | 33.3 | 63.9 |
| 2 | 39 | 38 | 55.3 | 176 | 256 | 0 | 23.7 | 76.3 |
| 3 | 40 | 35 | 53.6 | 288 | 441 | 0 | 20.0 | 80.0 |
| 4 | 20 | 20 | 32.4 | 185 | 300 | 20.0 | 70.0 | 10.0 |

4 ま と め

8月中旬収穫には、4月下旬播種、5月中旬定植とする大型トンネル這い栽培で、子づる2本片側誘引・1株4果着果とする。8月下旬収穫には、5月中旬に播種し、ハウス立ち栽培で、親づる1本仕立て・1株1果着果とするのが良い。なお、この時期の栽培では、モザイク病の発生が問題になるので、その予防には細心の対策が必要である。

今後、更に高品質な果実の多収穫をねらいとした栽植密度や整枝方法などを検討する必要がある。